

教科 科目	国語 現代文B・文系現文演習	学 年	6年	単 位	4(2)単位	担 当	野見山 和也 坂下 雅美
【科目の概要】 現代文Bは5年の教科書を継続して使用します。教科書の現代文は〈現代〉についてよく考えられて書かれた文章、つまり近代批判（ポストモダニズム）です。現代の課題をさまざまな角度から取り上げたこれらの優れた書き手の個性的な表現にすなおに耳をかたむけ、じっくり読み込んでいきます。なお文系の現代文演習では、大学受験に必要な読み・書く技術を習得します。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 漢字・慣用句・文法事項などに関する基礎的な力 ③ 多様なテキスト（説明文・物語文・解説文など）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】 ・ 予習や小テストの準備、自学用問題集の取り組みなどを計画的に行うことができる。 ・ 必要な語彙が身についている。 ・ 文章構成を理解し、要約することができる。 ・ 筆者の主張を捉え、その主張に対する自分自身の考えを持つことができる。 ・ 登場人物の心情や、その心情の背景にあるものを読み取ることができる。 ・ 設問に応じた解答ができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	評論Ⅰ「オブジェとイメージ」						
5月	小説Ⅰ「檸檬」						
6月	評論Ⅱ「コペルニクスと神秘思想」						
7月	随想「沙魚」						
8月	夏期補講（入試対策） 評論Ⅲ「『普遍性』」						
9月	評論Ⅲ「『普遍性』」 小説Ⅱ「詩人の生涯」						
10月	評論Ⅳ「ファンタジー・ワールドの誕生」						
11月	小説Ⅲ「舞姫」						
12月	小説Ⅲ「舞姫」 センター入試・私大対策演習						
1～3月	センター入試・二次・私大対策演習						

教科 科目	国語 古典B（古文）	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	恒住 典子
【科目の概要】 さまざまな古文の文章を読むことで、人間・社会・自然などについて、自分の考えを深めたり発展させたりするようにします。また、古語・文法事項・古典常識などを的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、古文特有の文体や修辞などの表現上の特徴をとらえられるようにします。日本人の原点として、その伝統的文化や言葉を大切にしながら、生活様式や、美意識、価値観を学び、その生き方を豊かに広げていく一助としていきます。センター試験等の入試問題に解答できる力をつけていきます。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（韻文・物語文・随筆思想ど）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 入試の出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】 ・古文の正確な現代語訳ができる。 ・和歌の解釈や観賞ができる。 ・古典文法（助詞・敬語・和歌の修辞法）などが理解できる。 ・文学史を理解できる。 ・登場人物の心情説明等、設問形式に応じた解答（字数制限のある解答）ができる。 ・作品の時代背景や価値観、文学史的な意義などを理解し、表現できる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	説話「古今著聞集」刑部卿敦兼と北の方 ・「宇治拾遺物語」秦兼久の悪口 ・問題演習						
5月	随筆 「枕草子」すさまじきもの ・問題演習						
6月	日記「蜻蛉日記」嘆きつつひとり寝る夜 「和泉式部日記」夢よりもはかなき世の中を ・問題演習						
7月	日記「紫式部日記」日本紀の御局 ・問題演習						
8月	*入試問題演習						
9月	物語「源氏物語」葵の上と物の怪 ・問題演習						
10月	物語「源氏物語」紫上の死 ・問題演習						
11月	物語「大鏡」菅原道真の左遷 玉勝間「師の説になづまざること」 ・問題演習						
12月	センター対策演習						
1月	センター・私大対策演習						
2月	国公立・私大対策演習						
3月	国公立・私大対策演習						

教科 科目	国語 古典B（漢文）	学 年	6年	単 位	1単位	担 当	恒住 典子 松本 梓乃
【科目の概要】							
<p>様々な漢文の文章を読みながら、語句・句法などを理解し、現代語訳や解釈ができるようにします。また漢文の作品を読むことで、人間の生き方・中国の歴史・思想などについて自分の考え方を深めていき、先人たちの価値観や考え方を学び、文化を継承していく姿勢を身に付けていきます。センター試験等の入試問題に解答できる力をつけていきます。</p>							
【育成をめざす学力】							
<p>① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識・漢文句法などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（漢詩・物語・随筆・思想・史伝など）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 入試の出題形式に応じて解答できる力</p>							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の音読ができる。 ・漢文の正確な現代語訳ができる。 ・漢詩の解釈ができる。 ・登場人物の心情説明等、設問形式に応じた解答ができる。 ・作品の時代背景や価値観、文学史的な意義などを理解し、表現できる。 ・漢文の世界と現代との関連性を見出すことができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	逸話 「不顧後患」 「孔明臥竜」						
5月	逸話 「三横」						
6月	逸話 「江南橘為江北枳」						
7月	伝奇小説 「人面桃花」						
8月	*入試問題演習						
9月	史伝 「廉頗と藺相如」						
10月	史伝 「廉頗と藺相如」						
11月	思想 「老子」 「莊子」						
12月	センター対策演習						
1月	センター・私大対策演習						
2月	国公立・私大対策演習						
3月	国公立・私大対策演習						

教科 科目	世界史B	学 年	6年	単 位	4単位	担 当	宮 直 樹
<p>【科目の概要】国際紛争、環境問題、人口問題、経済格差など、現代社会には世界的な視野で解決が求められる課題が山積している。こうした問題を改善していくには民族・宗教・ことばなど文化の違いをこえた対話が欠かせず、そして対話にはおたがいを理解することが前提となる。文化の違いは人々の歩んできた歴史に影響を受けており、また現在のさまざまな課題は過去の人々の営みの延長線上に発生している。私たちが幸せを求めて未来を志向するほど、過去についての学びは大切となる。6年の世界史では、2つの世界大戦の学習後、古代から中世世界を学習し、地域の歴史的特性への理解を深めることを通して現代の国際的諸問題の原点に立ち返り、真の国際人として国際平和に貢献できるような人材となるよう、国際社会を創造するためのあらゆる課題を多角的に捉えていく。また、演習時間の充実により、入試に通用する受験力を養っていく。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界史を総合的に理解するために必要な基本用語を習得する力 学習内容を整理し、「人間理解」「社会認識」に関する地域・時代別の特性や普遍性を理解する力 学習内容を具体例として、「人間理解」「社会認識」に関する地域・時代別の特性や普遍性を説明する力 学習内容を自己の関わりからとらえ、世界史における「人間理解」「社会認識」のあり方を推断し、評価する力 自己の価値観から現代社会を分析し、世界の歴史が与えた影響をふまえて社会課題に対する解決策を提示する力 学習活動を通じ、世界史学習の意義を理解し、学習への興味・関心を喚起する力 学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） 基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②） 基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③） 単元の学習内容を通じて、各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社B①②） 各地域・時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社B③） 社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤） 学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④） 学習過程において必要な情報を収集し、図版、地図、グラフ、文章等の資料として提示できる（社B④、C①～⑤） 学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥） 学習過程を通じて、世界史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦） 							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	（単元33）第一次大戦後の国際体制						
5月	（単元34）世界恐慌とファシズムの成立 （単元35）大戦間のアジア動向 （単元36）第二次世界大戦 *現代史（単元37～39）は、「公民演習」授業で取り扱います。						
6月	先史時代～古代世界 （単元1）人類の出現と歴史時代への移行 （単元2）古代オリエント世界 （単元3）古代ギリシア、ヘレニズム世界 （単元4）古代ローマとキリスト教 （単元5）古代インド、イラン世界						
7月	東アジア文化圏の形成 （単元6）古代中国王朝の成立						
8月	（単元7）中華帝国と東アジア文化圏の形成						
9月	アジア諸地域の繁栄 （単元8）東アジア世界の再編 （単元15）モンゴル帝国と中華帝国の復興						
10月	（単元16）明朝の内政と外交 （単元17）最後の中国王朝 ヨーロッパ世界の形成と発展 （単元11）中世西欧世界の成立 （単元12）中世西欧世界と東欧世界						
11月	（単元13）中世西欧世界の変容（1） （単元14）中世西欧世界の変容（2） イスラーム世界の形成と発展 （単元9）イスラーム世界の成立と発展 （単元10）イスラーム世界の分裂						
12月	総合演習（各国史・時代横断史）						
1月	総合演習（センター対策演習）						
2月	総合演習（私大対策演習：特別時間割）						

教科 科目	日本史B	学 年	6 年	単 位	4 単位	担 当	古賀 倫子
【科目の概要】 国際化の進んだ今日では、世界各地で人々と接する機会が増え、自分とは異なる文化を理解する努力が求められています。異文化を理解し、異文化との共生をめざすためには正しい歴史認識をもつことが大切です。そこで、6 学年では、5 学年からの継続的な歴史をふまえて学習を深めいき、近世社会の政治の特徴から近代国家の成立や国際関係を考察し、現代社会の諸問題につながる課題を見つけ、世界と日本のもつ様々な課題解決の方策を探っていきます。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化と伝統と現代日本の課題を理解するための日本史の基本的事項を理解する力 ・史料および資料の意味、さらに将来の予測を読み取る力 ・歴史の時系列の理解、歴史の過程に見られる「原因・結果・影響」を整理する力 ・歴史的な見方や考え方から現代への問題を考えることができる力 ・学習活動を通じ、日本史の学習の意義を理解し、学習への興味・関心を喚起する力 ・学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） ・基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②） ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③） ・単元の学習内容を通じて、各時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社B①②） ・各時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社B③） ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤） ・学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④） ・学習過程において必要な情報を収集し、図版、地図、グラフ、文章等の資料として提示できる（社B④、C①～⑤） ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥） ・学習過程を通じて、日本史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦） 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	武家社会の成長 第 5 章 幕府の衰退と庶民の台頭						
5 月	第 6 章 幕藩体制の確立 織豊政権、桃山文化、幕藩体制の成立						
6 月	第 7 章 幕藩体制の展開 幕政の安定 経済の発展						
7 月	第 7 章 幕藩体制の展開 幕政の安定 経済の発展						
8 月	第 8 章 幕藩体制の動揺 幕政の改革 幕府の衰退						
9 月	第 4 部 近代・現代 第 9 章 近代国家の成立						
10 月	第 10 章 近代日本とアジア						
11 月	第 11 章 占領下の日本 第 12・13 章 高度成長の時代 激動する世界と日本						
12 月							
1 月	センター対策演習・私大対策演習						
2 月							

教科 科目	地理 B (理系)	学 年	6 年	単 位	2 単位	担 当	古賀 彩香
【科目の概要】 現代の世界は、かつてないほどに地域間の交流が深まり、それに伴い、経済格差・国際紛争・環境問題・人口問題など 解決を迫られた問題が山積している。こうした問題を解決するには、人間世界の発展の歴史という時間を指標にした縦軸と、現在の視点で世界の諸地域の成り立ちや相関連を理解する横軸の視点が必要である。地理では、この横軸として世界各地が どのような自然的立地条件によって成り立ち、どのような経済・政治状態で発展し、お互いにどのような関連で結びついているかを理解し、それらの狭間で起こっている諸問題について、解決の糸口を探りたい。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した基本用語を習得する力 ・ 世界の国々や地方の、地域の特性について、一般性と特殊性、個別性を理解する力 ・ 地図化された資料、図式化された諸資料を読み取り、その中から問題解決に必要な具体的事実を提示する力 ・ 事象を諸地域との関連上で思考する地理的見方・考え方でとらえ、図式化、地図化する力 ・ 学習内容を人間理解や社会認識につなげる力。 ・ 諸地域の個別の学習から、世界規模の課題を発見し、説得力ある改善の方策を探り表示する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本用語を正確に暗記し、表記できる。(A①) ・ 各地域についての基本用語同士の関係を把握し、図式化できる。(A②) ・ 提示された資料から、各地域の特徴を読み取り、特徴の判断に必用な情報を抽出できる。(A④) ・ 各地域の社会観や人間観に対する判断に必用な資料を収集指定時できる。(B④) ・ 各地域の社会観や人間観を推測し、自分の見かたとして説明できる。(B②) ・ 地図化された資料、図式化された諸資料を読み取り、その中から問題解決に必要な具体的事実を独自の視点から考えることができる。(C②) ・ 学習過程を通じて、地理学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる。(C⑦) 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	第Ⅱ部 現代世界の系統地理 4 章 生活文化、民族・宗教 3 節 現代世界の国家 4 節 民族・領土問題 ①世界の民族・領土問題 ②民族・領土から捉えた日本 ③民族と宗教の共生部向けの課題						
5 月	第Ⅲ部 1 章 現代世界の地域区分 2 章 1 節 地誌の考察方法 2 節 東アジア ①アジアの自然環境 ②中国 ②韓国・北朝鮮 3 節 東南アジア ①自然環境と社会 ②東南アジア諸国 4 節 南アジア ①自然環境と社会 ②南アジア諸国						
6 月 7 月	5・6 節 西アジア・アフリカ ①自然環境 ②社会 ③農業 ④鉱産資源 ⑤西アジア諸国 ⑥北アフリカ諸国 ⑦中南アフリカ諸国						
8 月	7 節 ヨーロッパ ①自然環境 ②社会 ③EU ④農林水産業 ⑤鉱工業 8 節 ロシアと周辺諸国 (旧ソ連) ①自然環境 ②社会 ③農産 ④鉱工業						
9 月 10 月	9 節 アングロアメリカ ①自然環境 ②アメリカ合衆国 ③カナダ 10 節 ラテンアメリカ ①自然環境 ②社会 ③農産 ④鉱工業 ⑤ラテンアメリカ諸国 11 節 オセアニアと両極地方 ①オーストラリア ②ニュージーランド ③太平洋の島々 ④南極地方						
11 月 12 月 1 月	センター入試対策						

教科 科目	公民演習	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	宮 直 樹
<p>【科目の概要】</p> <p>国際的にも国内的にも先の見えない混迷の現代社会において私たちが求められるのは、日々起こる諸事象を理論によって意味づけ、その視点から課題を発見し、問題解決の糸口を探し、他者との協働によってよりよい社会を構築していく力である。6学年では、新たに学ぶ「現代社会」の国際経済・国際政治を学ぶことで、「世界史」学習の補強を行うとともに、4学年で学んだ国内経済分野の復習を行い、未来社会の有為な形成者としての社会的スキルを磨くとともに、センター入試および私立大学の「現代社会」入試問題レベルに対応する問題対応力を育てる。なお「現代社会」の倫理社会分野および経済分野の国民生活（企業・農業・労働・社会保障）は4学年から実施している公民補講を継続して行う。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>（知識）現代日本と世界の政治・経済について、基礎事項を理解する力。 （技能）政治・経済と自己とのかかわりを具体例から把握する力。 （活用）現代社会の現状と課題について、根拠を示して評価する力。 （探求）現代社会に生きる一員として何をなすべきかを考えていく問題解決力や判断力・洞察力。</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本用語を正確に暗記し、表記できる。(A①) ・基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる。(A②) ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる。(A③) ・現代社会を現代の政治、経済、文化について、それぞれを関連づけて理解できる。(A②) ・習得知識や経験をつないで提示された状況にある自分を想像できる。(B①) ・立場によって利害が対立する論争や、要因が複雑に絡み合う複合的な問題点を理解できる (B②) ・現代社会の社会観や人間観に対する判断や評価に必要な資料を収集し、提示できる。また、自分の見方として説明できる。(A④B②) ・人間の特質、人格と尊厳などについて、倫理的基礎を基礎に判断ができる。(B③) ・現代の人間や社会の問題点を独自の視点から設定できる。(B②) ・習得知識や経験、収集した情報を活用して、設定した問題に対する社会の実態把握、原因分析、将来予測ができる (C①)。 ・習得知識や経験、収集した情報を活用して、制約条件を考えることができ、自己の価値観から、制約条件、功罪などを総合的に判断し、改善策を選択・決定できる。(C③) ・自己の社会改善策の立案・提示のプロセスを通じて学習意義を発見し、学習、人間、社会に対する供与・関心を換気できる。(C④) 							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	1 国際政治の特質 2 国際連合と国際協力						
5月	3 第二次大戦後の国際政治（単元 37 東西冷戦体制の確立と推移 38 国際政治の多極化と冷戦の終結） *上記内容は世界史の現代史単元との重複（世界史6年シラバス参照）						
6月	3 第二次大戦後の国際政治（単元 38 国際政治の多極化と冷戦の終結 39 アジア現代史） *上記内容は世界史の現代史単元との重複（世界史6年シラバス参照）						
7月	4 人種・民族問題 5 軍拡と軍縮 6 市場原理						
8月	7 金融と財政						
9月	8 戦後の日本経済						
10月	9 貿易と国際収支 10 外国為替市場のしくみ 11 第二次大戦後の国際経済						
11月	総合演習（国内政治、国内経済、国際政治、国際経済）						
12月	総合演習（国内政治、国内経済、国際政治、国際経済）						
1月	総合演習（センター対策演習）						
2月	私大対策演習（特別時間割）						

教科 科目	数学 数学ⅠA・ⅡB演習	学 年	6年文系	単 位	4単位	担 当	出来 三博
<p>【科目の概要】</p> <p>4、5年次に履修した数学ⅠA、ⅡBの知識を柔軟に組み合わせて活用しながら、センター入試問題において十分対応できるよう問題演習を行う。養うべきことは、思考力と正確で速い計算力であり、直観力や表現力(数式・イメージ図・グラフ)も必要である。入試問題に対して、①「問題」を色々な視点から分析できる力、②与えられた条件を正確に把握出来る力、③何が問われているのかを明確に把握出来る力、④今まで学んできた知識を駆使して的確な解法を選び取る力、また、⑤その解法のプロセスを明快に表現・説明できる力の育成を目指す。</p>							
<p>【育成をめざす学力】 数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A)</p> <p>②色々な事象を数学的に考察して<u>的確に情報を取り出す力</u> (C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>的確に問題を解決できる力</u> (BDE)・<u>表現できる力</u> (E)</p> <p>③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u> (D)</p> <p>④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に<u>活用する力</u> (G)</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <p>①定義や公理などの基礎的な知識が理解のもとで身につけている。②法則や定理が理解のもとで身につけている。③問題の条件が正確に把握できる。④問題の条件を数式・図・グラフ等を用いて数学的に表現できる。⑤何が問われているのが正確に把握できる。⑥問題解決のための方法を多角的に考察できる。⑦問題解決の方法を仲間と一緒に考え合うことができる。⑧問題の解法のプロセスを正確に記述できる。⑨問題の解法のプロセスを的確に説明できる。⑩「問題」を評価しようとする姿勢を持っている。</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	基礎問題・総合問題演習						
5月	ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B						
6月	ベネッセ過去問演習						
7月	センター試験過去問演習						
8月							
9月	総合問題演習						
10月							
11月	センター試験・入試対策実践問題演習						
12月							
1月							
2月							
3月							

教科・科目	数学Ⅲ＋数学演習	学年	6年理系	単位	7単位＋2単位	担当	村瀬 泉
使用する教科書・教材	『新編数学Ⅲ』(数研出版)、問題集「クリアー数学Ⅲ」(数研出版)、その他プリント等						
<p>【科目の概要】数学Ⅲの内容は大きく分けて「複素数平面」「2次曲線の代数方程式・極方程式」「初等解析学」の3つの分野に分かれる。特に、「初等解析学」では、数学Ⅱに比べて関数や極限の概念、関数の連続性をやや厳密に捉えなおした上で、「微分積分」を有理・無理関数、指数・対数関数、三角関数などの初等関数に拡張する。また、積分の概念の本来の意味の表現である「区分求積法」や微分積分学の一つのルーツである速度・加速度・道のりの関係にも触れる。また、「2次曲線の代数方程式・極方程式」は、後に「初等解析学」と融合し、微分積分の方法でそれらの解析を行う。授業は、最初内容をⅢAとⅢBの2分野に分け、並行する形で進め、後に演習の中で統合する。</p> <p>【育成をめざす学力】まずはバランスのとれた直観力と表現力(数式・イメージ図・グラフ)、正確で速い計算力であり、中等教育における「数学」の学力の集大成といえる。つまり、数Ⅲが目指す力は、①「問題」を色々な視点から分析できる力、②与えられた条件を正確に把握出来る力、③何が問われているのかを明確に把握出来る力、④今まで学んできた知識を駆使して的確な解法を選び取る力、また、⑤その解法のプロセスを明快に表現・説明できる力を目指す。また、⑥「問題」の背景やその意味、「問題」の質など、「問題」を評価できる力もつけたい。数学Ⅲは高校と大学の数学を橋渡しする科目であり、理系の進路選択者にとっては必須科目であるし、大学での学びの基礎である。</p> <p>【評価基準・評価項目】①定義や公理などの基礎的な知識が理解のもとで身につけている。②法則や定理が理解のもとで身につけている。③問題の条件が正確に把握できる。④問題の条件を数式・図・グラフ等を用いて数学的に表現できる。⑤何が問われているのが正確に把握できる。⑥問題解決のための方法を多角的に考察できる。⑦問題解決の方法を仲間と一緒に考え合うことができる。⑧問題の解法のプロセスを正確に記述できる。⑨問題の解法のプロセスを的確に説明できる。⑩「問題」を評価しようとする姿勢を持っている。</p>							
【年間指導単元・内容と学習活動】ⅢB						ⅢA	
4月	第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	第1章 複素数平面 (複素数の極形式) (ド・モアブルの定理)					
5月	第5章 微分法 第1節 導関数と原始関数 (微分係数と導関数・導関数の計算) 第2節 いろいろな関数の導関数 (三角関数・対数関数・指数関数の導関数) (媒介変数表示と微分)	(複素数と図形) 第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 (放物線・楕円・双曲線) (平行移動)					
6月	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 (接線の方程式、平均値の定理) (関数の値の変化とグラフ)	(直線との関係) 第2節 媒介変表示と極座標 (曲線の媒介変表示) (極座標と極方程式)					
7月	第2節 いろいろな応用(方程式・不等式への応用) 第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 (置換積分法と部分積分法・いろいろな関数の不定積分)						
8月	第2節 定積分 (置換積分法と部分積分法・定積分のいろいろな問題) (微積分の基本定理・区分求積法)						
9月	第3節 積分法の応用 ・面積、体積 (速度と加速度・道のり・曲線の長さ・微分方程式)						
10月	数学総合問題演習(微分・積分融合問題)						
11月	数学総合問題演習(大学入試問題)						
12月	数学総合問題演習(大学入試問題)						
1月	センター試験対策問題演習、私大・国公立2次試験対策問題演習						
2月	私大・国公立2次試験対策問題演習						

教科 科目	物理	学 年	6年	単 位	4単位	担 当	井上 雄二
【科目の概要】 自然の事物や現象についての理解を深め、人間生活とのかかわりを考えることを主眼において、物理学的に探究する能力と態度を育て、同時に基本的な概念や原理・法則を理解する。5年次に身につけた現象の物理的解釈の仕方を基礎とし、更に複雑な物理現象についてもモデル化し、条件から文字式を導くことで科学的な根拠に基づいて説明できるようにする。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> 身近な現象から先端技術にいたるまで興味や関心をもって、科学的に物事をとらえようとする力 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力 知識と与えられた条件から予想する力 現象のモデル化、グラフ化を行い、文字式を用いて数的処理をし、科学的に考えることができる力 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解し、分析したり考察したりする力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> 日常生活で見られる事象や現象を物理的に説明することができる。 正確に計算し、適切な単位をつけて表記することができる。 モデルやグラフ、文字式を用いた数的処理を行い、日常の物理現象を説明することができる。 観察・実験の過程、結果および考察を論文形式の報告書にまとめることができる。 物理の知識を活用して、自然の事物や現象・最新の科学技術・研究成果を説明することができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	IV-③ 電流と磁場（磁場・電流のつくる磁場・電流が磁場から受ける力・ローレンツ力）						
5月							
6月	IV-④ 電磁誘導と電磁波（電磁誘導の法則・交流の発生・自己誘導と相互誘導・交流回路）						
7月							
8月	V-① 原子（電子・光の粒子性・X線・粒子の波動性）						
9月	V-② 原子（原子の構造とエネルギー準位・原子核・放射線とその性質・核反応と核エネルギー・素粒子）						
10月	問題演習(センター対策, 国公立・私立大入試対策)						
11月							
12月							
1月							
2月							
3月							

教科 科目	化学	学 年	6年理	単 位	5単位	担 当	遠藤康志
【科目の概要】 化学では、気体や溶液の性質、反応の速さと平衡状態、無機化合物、有機化合物について学習します。すでに学んだ化学基礎の内容と関連づけることで、物質に関する事物や現象を総合的、有機的にとらえることができるようにします。さらに、現在の社会が抱える問題解決において、また、よりよい社会を築く上で化学が担う役割を考えます。							
【育成をめざす学力】 ・興味や関心をもって、物質の性質や変化をとらえようとする力 ・モデル化、グラフ化などの方法を用いたり、数的処理を行ったりして科学的に考えることのできる力 ・物質の性質や変化に関する知識を習得し、自然の事象や現象を科学的な視点で捉えることのできる力 ・実験に関する技能に習熟し、実験結果を科学的な考察を交えて表現する力 ・考察を深める上で有効な文献の収集やその適切な活用ができる力							
【評価基準・評価項目】 ・日常生活で見られる事象や現象を化学的に説明することができる。 ・モデルやグラフを用いたり、数的な処理を行ったりして、物質の構造や変化を説明することができる。 ・化学の知識を活用して、自然の事物や現象や最新の化学技術や研究成果を説明することができる。 ・安全に十分配慮して適切な実験操作を行い、実験の目的を達成することができる。 ・観察・実験の過程、結果および考察を論文形式の報告書にまとめることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	第3章 無機化合物	非金属元素					
5月	金属元素						
6月	第4章 有機化合物	2節 脂肪族炭化水素 3節 酸素を含む脂肪族化合物					
7月	5節 芳香族化合物						
8月	第5章 高分子化合物						
9月	化学演習＋化学復習						
10月	化学演習＋化学復習						
11月	センター試験対策						
12月	センター試験対策						
1月	センター試験対策 私立・国公立2次対策						
2月	私立・国公立2次対策						

教科 科目	理科演習①(化学)	学 年	6年文選	単 位	2単位	担 当	田中宏樹・遠藤康志
【科目の概要】 5年次の化学基礎では、化学の基礎となる原子・分子・イオンの概念、原理、法則などを、身近な物質や現象を通して理解し、生活に関連した科学的自然観や思考力を身につけていきます。6年の理科演習では、化学基礎の授業の内容をさらに深め、さらなる理解を目指します。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力 ・自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力 ・学習方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力 ・観察・実験の結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正確に表現する力 ・根気強く、速く、正確に計算する力 ・単位の意味を理解し、正しく活用することができる力 ・文字式を活用することができる力 ・資料(文章・グラフ・表など)を正確に読解する力 ・分析したり考察したりする力 ・複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・科学的な見方や考え方で日常生活をとらえることができる。 ・現在および将来における科学の課題と人間生活のかかわりを考えることができる。 ・身近な事物・現象に関する知識を身につけ、日常生活との関連を見いだすことができる。 ・モデルや図などを活用して、基本的な概念の理解を深めることができる。 ・科学的な見方や考え方で理科に対する知識を深め、日常生活や自然とのかかわりをより深く理解することができる。 ・基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。 ・モデル化、グラフ化などの方法を用いて、身近な事物や現象を科学的に考えることができる。 ・モデル化して現象を説明したり、グラフ化したものから規則性を読み取ったりすることができる。 ・最新の科学技術や研究成果について理解を示すことができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	第1章 物質の構成	演習					
5月	演習						
6月	第2章 物質と化学結合	演習					
7月	演習						
8月							
9月	第3章 物質の変化	演習					
10月	演習						
11月	センター試験対策						
12月	センター試験対策						
1月	センター試験対策	私大国公立2次対策					
2月	私大・国公立2次対策						

教科 科目	生物	学 年	6年理	単 位	4単位	担 当	岩永 和美
【科目の概要】							
<p>生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎で学んだことを基盤に、生物の授業の中でさらに深く知識や原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはずです。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。</p>							
【育成をめざす学力】							
<p>興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。知識と与えられた条件から予想する力。</p> <p>自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。</p> <p>学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。</p> <p>資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力分析したり考察したりする力。</p> <p>根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。</p>							
【評価基準・評価項目】							
<p>授業で学習した内容を正しく理解し、これまでの学習内容や身の回りの自然現象との関連付けができる。</p> <p>基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。</p> <p>知識や自分の考えを文章で的確に表現することができる。</p> <p>観察・実験の目的や内容を理解し、的確に行うことができる。また、その結果を予測し、結果に対して科学的な考察を行うことができる。実験データなどをグラフ化したものなどから規則性を読み取ることができる。</p>							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	第4編 生態と環境		第7章 生物群集と生態系				
5月	第7章 生物群集と生態系						
6月	第5編 生物の進化と系統		第8章 生命の起源と進化				
7月	第9章 生物の系統						
8月	受験演習						
9月	受験演習						
10月	受験演習						
11月	センター試験対策演習						
12月	センター試験対策演習						
1月	センター試験対策演習		私大・国公立二次対策演習				
2月	私大・国公立二次対策演習						

教科 科目	理科演習②（生基）	学 年	6年文選	単 位	2単位	担 当	岩永 和美・古田 つゆみ
【科目の概要】 生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎で学んだことを基盤に、生物の授業の中でさらに深く知識や原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはずです。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。							
【育成をめざす学力】 興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。知識と与えられた条件から予想する力。 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力分析したり考察したりする力。 根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。							
【評価基準・評価項目】 授業で学習した内容を正しく理解し、これまでの学習内容や身の回りの自然現象との関連付けができる。 基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。 知識や自分の考えを文章で的確に表現することができる。 観察・実験の目的や内容を理解し、的確に行うことができる。また、その結果を予測し、結果に対して科学的な考察を行うことができる。実験データなどをグラフ化したものなどから規則性を読み取ることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	基礎演習						
5月	基礎演習						
6月	発展演習						
7月	発展演習						
8月	センター試験対策演習	私大入試対策演習					
9月	センター試験対策演習	私大入試対策演習					
10月	センター試験対策演習	私大入試対策演習					
11月	センター試験対策演習	私大入試対策演習					
12月	センター試験対策演習	私大入試対策演習					
1月	センター試験対策演習	私大入試対策演習					

教科 科目	音楽Ⅲ	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	爲頼 康子
【科目の概要】 5年次と同様、本科目は週1回2時間連続の授業形態をとります。5年次では、意欲的に音楽活動に参加し個性豊かな音楽表現をすることを目標としてきました。本科目ではそれをふまえた上で、集団を意識した音楽活動を展開し、周囲との調和を考えた音楽学習を実践します。学習教材も高度なものになりますが、より高い技術と音楽性の習得を目指し、授業をすすめます。							
【育成をめざす学力】 ・ 広い視野から音楽をとらえる能力。 ・ より高度な演奏技術と音楽的感性の習得。							
【評価基準・評価項目】 ・ 意欲的に授業に参加できる。 ・ 豊かな音楽性をもった表現ができる。 ・ 音楽と自分との関わりについて深く考えることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	合唱活動						
5月	西洋音楽史の流れ 作曲家の功績（モーツァルト）						
6月	日本歌曲について 合奏活動 確認テスト 実技テスト						
7・8月	音楽用語の学習						
9月	作曲家の功績（ベートーヴェン） イタリア歌曲について 楽曲の種類について						
10月	合奏活動 合唱活動						
11月	作曲家の功績（ショパン） 合唱活動 確認テスト 実技テスト						
12月	クリスマス礼拝に向けて（ハレルヤコーラス） 高校で学習した音楽の総まとめ						

教科 科目	美術Ⅱ	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	竹富 栄治
【科目の概要】 自分の設定した鑑賞者、使用者の気持ちを考えつつ自分の個性を生かした作品を制作します。また作品制作と鑑賞を通して美術的表現と社会性について学びます。							
【育成をめざす学力】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現することに価値を置き有効な表現手段を探り、表現する力 ・ 時代の中、世界の中の自分の位置を把握し、独創的な発想をする力 ・ 目標を設定し実現のために計画的に行動する力 ・ 民族・地域・時代による価値の違いに興味関心を持ち理解する力 							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的にあった表現様式（方法）・材料を選択することができる ・ 作品の良さや美しさ、作者の心情を感じとることができる ・ 自己価値を見つめ、新しい美を発見しようと努力する ・ 美術の変遷を影響と発展の観点から理解することができる ・ 世界の美術の違いを理解し、その良さを味わうことができる 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	絵本を製作する						
5月	絵本の味わいを探る テーマ決定とプランニング						
6月	制作						
7月	製本・完成・鑑賞						
8月							
9月	自分の好きな美術作品の作品集を作成する						
10月	削って描く（スクラッチボード） モノクロの世界を味わう						
11月	テーマの決定 制作・完成・鑑賞						
12月	感謝の気持ちを表現する（グリーティングカード）						

教科 科目	芸術科 書道 II	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	中島 啓子
【科目の概要】 生活の中で文字を書く機会が減り、毛筆を使用する機会はほとんどないのが現状です。しかし、伝統文化である書には、無機質な機械による文字にはない温かさや、書き手の思いが表現されます。感動した言葉や、自分の思いをのせた作品の制作を通して自己発信し、また、生涯にわたり書道に親しむ機会になればと思います。書道 I で培った基礎的な表現力、鑑賞力を高めるとともに、新たに篆書、草書の習得を目指します。							
【育成をめざす学力】 ・書の伝統や文化についての理解を深める力。 ・創造的な活動を通して、自分なりの感じ方ができる力。 ・個性豊かな表現、鑑賞ができる力。							
【評価基準・評価項目】 ・課題の提出に加え、単元ごとの書道の歴史および技法が理解できる。 ・自主的かつ積極的に学習活動を行い、書に親しむことができ、生活に活かすことができる。 ・他者への配慮をもって日常の取り組みができ、準備、後片付けが機敏にできる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	漢字の書 篆書	大篆と小篆					
5月	隸書	古隸と八分隸	乙瑛碑	木簡	創作		
6月	草書	書譜					
7月	漢字による創作（楷書、行書、草書、篆書、隸書）と臨書 半切 1 / 3、1 / 2						
8月	漢字仮名交じりの書の学習	選定課題					
9月	自由撰文 半切 1 / 3、1 / 2						
10月	仮名の書	高野切第一種	半懐紙臨書				
11月	散らし書き 和歌一首						
12月	自由課題 高校書道のまとめ						

教科 科目	保健体育 体育	学 年	6年	単 位	3単位	担 当	潮下 竜二
【科目の概要】 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、構成、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力を育てる。健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、健康の増進と体力の向上を図る。							
【育成をめざす学力】 ・ 生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成。 ・ 健康・安全の管理能力の育成。 ・ 体力の向上。							
【評価基準・評価項目】 ・ 各自が競技の特性を理解し、基本的動作ができる。 ・ 応用的技術を習得し、ゲームができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	体育に関するオリエンテーション 集団行動…体育で行う行動様式の習得 ・バドミントン ①グリップ ②スタンス						
5月	⑤ストローク ④ショット ⑤サーブ ⑥スマッシュ						
6月	評価・実技テスト ① サーブ ②ストローク ③スマッシュ ルール説明 ダブルスのゲーム						
7月	ダブルスのゲーム						
8月	・テニス						
9月	・テニス ①グリップ ②スタンス ③グランドストローク						
10月	・テニス ③グランドストローク ④ボレー ⑤スマッシュ ⑥サーブ						
11月	評価、実技テスト ① サーブ ②ストローク ③スマッシュ ④ボレー ルール説明 ダブルスのゲーム						
12月	ダブルスのゲーム						
1～3月							

教科 科目	家庭	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	高崎 和子
【科目の概要】 現在は男女が協力して家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことが重要になっています。人はどのような生き方をしようとも、日々の暮らしをなくすことはできません。家庭科は人間が生きていくために、自分の生活を自分でデザインする力をつける教科です。一人ひとりが生活の主人公になる力をつけることを目的とし、そのために必要な知識や技術、考え方などを学び、自らの力で生活できる能力を身につけ、自分の生活スタイルを自己決定するだけの基本的な構えをつくっていきます。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の生活設計を考えようとする力 ・ 情報を収集・活用する力 ・ 自分の考えをまとめる力 ・ 課題に対して様々な角度から考える力 ・ 生活をよりよいものにしていこうとする意欲や創意工夫する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した領域についての基本的知識を習得できている。 ・ 安全に配慮してグループのメンバーと協力して実習を行うことができる。 ・ 必要な情報収集・活用ができる。 ・ さまざまな視点から情報を分析し、自分の意見をまとめて発表することができる。 ・ 学習内容に関するスクラップブックを作成し、その内容を要約して発表することができる。 ・ 必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて発表することができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	「住生活をつくる」 (1)人と住まいのかかわり 「消費者として自立する」(1)消費行動を考える						
6・7月	「住生活をつくる」 (2)快適な住まいづくり 「消費者として自立する」(2)経済的に自立する						
8～9月	「住生活をつくる」 (3)健康的で安全な住まい環境 「消費者として自立する」(3)資源・環境を考える						
10月	「住生活をつくる」 (4)住環境と地域環境 「食生活をデザインする」 食卓の作法						
11・12月	「住生活をつくる」 (5)よりよい住生活を創造する 「食生活をデザインする」 食事の計画と調理実習						

教科 科目	英語 コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅱ	学 年	6 年	単 位	7 単位	担 当	松下・河野・磯田 オサリバン
<p>【科目の概要】</p> <p>入試問題に取り上げられる英文長文問題の特徴はそのテーマ出題の多様性にあります。従って読解演習においては、様々な最新のテーマを扱った英文を論理的観点から考察し、筆者の趣旨やその英文が担っている役割を把握する力を養います。また、ネイティブ教師と日本人教師とのペアで教えるオーラルコミュニケーションの授業を通して、確かな文法力を基礎とした英作の力や、ディスカッション等が行える総合的な英語力の向上を目指していきます。英語表現Ⅱでは、文法事項や構文を復習しながら、英語で表現できる力を養います。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>Reading：速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力・テキストを分析的、批判的に読む力</p> <p>Listening：目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力</p> <p>Speaking / Writing：与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <p>Speaking：さまざまな問題について、他教科との連携の中で得た知識をもとに理解を深め、自分の意見を英語で、5分程度で発表することができる。また、それに対して、質疑応答や意見交換をすることができる。</p> <p>Writing：さまざまな問題について、他教科との連携の中で得た知識をもとに、200語程度の英文で、自分の考えや意見を書くことができる。</p> <p>プロセスライティングの過程を実行し、パラグラフで自己表現することができる。</p> <p>Reading：センター（第6問）レベルの英文を wpm 120 程度で読み、理解できる。</p> <p>著者の意図を正確に読み取り、それに対する意見を持てる。</p> <p>300語程度の英文（センターレベル）を読んで、英語で要約することができる。</p> <p>Listening：センターレベルの問題に、7割正解することができる。</p> <p>200 words 程度の英文を、メモをとりながら聞き、大意を把握することができる。</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	<p>文法演習および読解演習</p> <p>ディスカッション トピック①・トピック②</p>						
5月							
6月							
7月							
8月	センター対策						
9月	<p>文法演習および読解演習</p> <p>ディスカッション トピック③・トピック④</p>						
10月							
11月							
12月							
1月	※センター特別補講						
2月	※私大・国公立2次対策授業						
3月							

教科 科目	英語 英語演習	学年	6年(文系)	単 位	2単位	担当	溝部・松崎
【科目の概要】 主に速読力を中心に、大学入試(センター試験)に対応できるリーディングスキルを磨いていきます。また、読んだ内容をもとに考えを深め、プロセスライティングの手法を用い、パラグラフでエッセイを書く力をつけて行きます。パラグラフライティングの力をつけることは読解力を伸ばすことにもつながり、リーディング力を高めることにもなります。							
【育成をめざす学力】 Reading : 速く、正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力・テキストを分析的、批判的に読む力 Writing : 与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力							
【評価基準・評価項目】 Writing : さまざまな問題について、他教科との連携の中で得た知識をもとに、200語程度の英文で、自分の考えや意見を書くことができる。プロセスライティングの過程を実行し、パラグラフで自己表現することができる。 Reading : センター(第6問)レベルの英文をwpm120程度で読み、理解できる。著者の意図を正確に読み取り、それに対する意見を持てる。 300語程度の英文(センターレベル)を読んで、英語で要約することができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	速読演習 ライティング ・60語以内で何かを説明する						
5月	・60語以内で自分の意見・感想を述べる ・120語以内で自分の意見を述べる						
6月	速読演習 ライティング ・120語以上で自分の意見を述べる						
7月	・日本語の課題文を読み、英語で意見を述べる						
8月							
9月	速読演習 ライティング ・英語の課題文を読み、英語で意見を述べる ・英語の課題文を英語もしくは日本語で要約する						
10月	センターリーディング演習 ライティング ・4コマ漫画や絵を見てストーリーを組み立てる						
11月	センターリーディング演習						
12月	入試自由英作文						
1~3月							

教科 科目	聖書	学 年	6年	単 位	1単位	担 当	福島 義人
【科目の概要】 5年次からの継続であるが、特に宗教改革の歴史と精神に学び、プロテスタンティズムの発展とそこに生きた人々の信仰と使命を学ぶ。							
【育成をめざす学力】 A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
【評価基準・評価項目】 ・宗教改革史を学んでカトリックとプロテスタントの違いを認識できる。 ・キリスト教が日本に伝えられたことの意義が理解できる。 ・キリスト教信仰に生きた人々の信仰と行動から自分自身の将来像をイメージできる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	ドイツの宗教改革						
5月	スイス宗教改革とカルヴァン フランスのプロテスタント						
6月	再洗礼派 離婚事件から宗教改革へ						
7月	ジェームス1世と欽定訳聖書 中道を行く国教会						
8月							
9月							
10月	非国教徒（会衆派，バプテスト派，クエーカー派）						
11月	ローマ・カトリック教会の目覚め イエズス会の設立						
12月	ザビエルの来日 キリシタンの歴史						
1月							
2月							
3月							

教科 科目	インテグレーションⅥ	学 年	6年	単 位	1単位	担 当	6学年教師
<p>【科目の概要】</p> <p>テーマ：「私たちが拓く日本の未来」～日本の未来を考え、国際社会でどのように貢献していくか～</p> <p>国際社会の中で日本に求められる役割を果たし、確固たる立場を明確にするためにも、日本の国の在り方が問われてくる。国の在り方を考え、高校生である私たちが何をすべきかを探求することも大切なことである。昨年、改正公職選挙法が成立し、選挙年齢が18歳に引き下げられた。政治家だけが国を動かすのではなく、有権者となる私たちも選挙を通して政治に関わり、日本の未来像をどのように描くことができるかを考える機会が与えられたのである。有権者になるということの意義を学び、日本の未来を拓く世代である高校生の立場から見た日本の政治の現状を知り、そこから見えてきた問題を分析し、それらの問題をどのように解決していくのかを考察していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の現代社会における諸問題について多面的・多角的に考察して、諸問題への解決・改善の方策を探っていく。 ・プレゼンテーションの中で相手の意見を聞き、自分の意見を発言する。 ・他者の立場・意見を理解し、客観的に判断し評価していく。 ・自己の進路に関わる分野から、課題解決のための方策を考察し論文としてまとめる。 							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題を多面的に推測し考察していく力。 ② リサーチした情報から現状分析を行い、必要な情報を客観的に読み取る力。 ③ 多面的に問題点を分析し、改善・解決の方策を探る力。 ④ 自分自身の意見（立場）を、根拠を明確にして表現する力 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 必要な情報を収集し、整理、分析することができる。 ② 現状認識、問題点分析後、問題解決に向けて、様々な視点から考えを深めることができる。 ③ 様々な立場・意見を理解し、その中から自分の意見を表明することができる。 ④ 自分自身の意見を、根拠を明確にして論文にまとめることができる 							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
1学期	<p><プレゼンテーション></p> <p>『私たちが拓く日本の未来』～日本の未来を考え、国際社会でどのように貢献していくか』について考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報のリサーチ・現状分析・課題発見・改善・解決の方策を探る。 ・プレゼンテーションの中で、課題を客観的に分析し、自分自身の意見を明確に述べる。 ・他者の意見を聞き、簡潔に要約する。 						
2学期	<p><論文作成></p> <p>「 私たちが拓く日本の未来 」をテーマに論文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報のリサーチ・現状分析・課題発見をする。 ・改善・解決の方策を探る。 ・自分自身の意見を根拠を明確にして論文にまとめる。 ・論文作成（文章表現・構成・推敲）能力を身につける。 						

教科 科目	総合表現講座	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	6学年教師
【科目の概要】							
<p>皆さんはこれまでに授業を通して、またメディアを通して、多くのことを学んできました。最上学年として今後も様々な知識を習得していきますが、この講座では、その知識（知り得た情報）を、色々な手段を使って外にむかって「表現」していくことを目的とします。その際、自分自身が理解して表現することは勿論、周囲にもその考えが伝わるような表現が出来るよう、実践を通して学びます。</p>							
【育成をめざす学力】:							
<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマの意味を理解する力 ・表現に必要な情報を的確に収集し、それを活動に生かす力 ・周囲の意見を、自分の知識の一助として受け入れる力 ・内容に応じて効果的にプレゼンテーションする力 							
【評価基準・評価項目】:							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加しているか。 ・与えられたテーマについて、「多くのことを知ろう」とする姿勢が見られるか。 ・グループ活動に意欲的に取り組んでいるか。 ・自信を持って自分の意見を周囲に伝えているか。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】:							
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・20分ディスカッションを通して意見の伝え方、聴き方を学ぶ 						
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪経済大学主催「17才からのメッセージ」作品応募 ・新聞学習・言語力UP学習 						
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞学習・言語力UP学習 ・貿易ゲーム 						
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易ゲームを踏まえてグループ討論 						
8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞学習・言語力UP学習 						
10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に自分の考えを効果的に伝える方法を学ぶ（CM作成） 						
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・総合表現講座まとめ 						

教科 科目	高大連携講座	学 年	6年	単 位	2単位	担 当	6学年教師
【科目の概要】 高大連携講座は、本校併設大学の教員との連携で、実際に大学教員による講義を受講しながら、大学における研究姿勢や研究意義を学ぶことによって進学意識を高め、高校での学びと大学進学後の学びをスムーズに連携させることを目的とした本校独自の設定教科です。							
【育成をめざす学力】 ・ 大学教育への理解を通して自己実現に向けプランニングし実践する力 ・ 大学教員による講義の概要をまとめる力、自己の研究課題を発見する力、情報を収集・分析する力 ・ 研究活動に対する自己を評価する力、相互に評価する力							
【評価基準・評価項目】 ・ 自分の考えや講義内容を文章で的確に表現できる。 ・ 自己実現に向けて、自らの課題に取り組むことができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	オリエンテーション 現代を知る						
5月	現代を知る						
6月	西南女学院大学講義に向けて準備 西南女学院大学講義・大学講義報告書						
7月	志望理由書作成						
8月	オープンキャンパス等						
9月	自己PR文作成・面接に備えよう・現代を知る						
10月	希望進路分野研究						
11月	希望進路分野研究						
12月	希望進路分野研究						
1月							
2月							
3月							